

平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震で発生した火災は 9 件

．なぜ火災は少なかったか

1) 住宅の倒壊の程度に対して出火率は過去の経験則に近い

地震時の出火率は、建物の倒壊の程度と関係があるとされ、関東大震災以降の過去の地震から全壊率と出火率に関する経験式が得られている。今回の地震を経験式と比較したのが下図であり、出火率は過去の地震から想定された範囲にあったと考えられる。

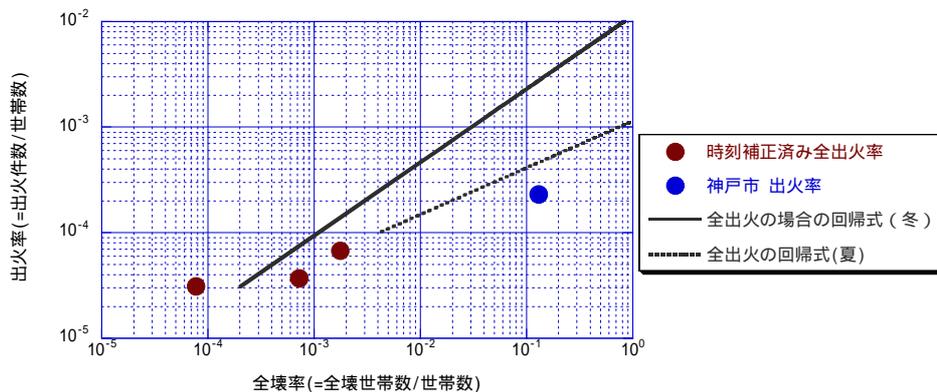


図 新潟県中越地震における全壊率と出火率の関係

世帯数は、平成 10 年住宅土地統計調査による。

全壊世帯数は不明のため全壊棟数を用いた。

今後、全壊棟(世帯)数の発表更新等により、図中のプロットは変動する可能性がある。

文献：岩見・室崎 1998, 建設省 1982

2) 住宅の強さが火災の件数を少なくした

被災地域の住宅が地震に耐えたことが、火災件数が少ない結果に結びついたといえる。住宅の耐震性の重要性が改めて認識される。

3) 通電火災が発生していない

阪神・淡路大震災で多数発生した通電に伴う火災は、現時点では発生していない。

地震直後に電力自動復旧のための自動再通電が行われなかった。

このため電気火花等が漏洩したガスへ着火する火災/爆発も発生していない。

停電した地域に通電再開する際、居住者等が不在の場合には電力計の手前で電線を切断するなど、通電火災対策が講じられている。

即ち、阪神・淡路大震災の教訓が生かされている。

3) なぜ火災が延焼拡大しなかったか

水 利：水道が断水しなかった、又は養殖池の水などを利用できた

消 火：住民、消防団、消防隊による消火・延焼防止活動が行われた

天 候：風が弱かった

. 引き続き注意すべき点（火災に関して）

焚き火やろうそく等の裸火の使用

熱源機器を本来以外の用途に用いること

（過熱防止等の安全装置が機能しない場合がある）

通電再開後の火災：建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の断線や電気機器内部の故障により、長時間経過した後、火災に至る場合がある

ガソリンの取扱い：安全な容器（金属製携行缶；静電気防止）で持ち運び、容器から自動車に給油する際は慎重に。ガソリンと灯油を間違わないように

. 調査概要（平成16年(2004年)新潟県中越地震 消防研究所一次火災調査）

日 程：平成16年10月27日（水）～10月30日（土）

調 査 員：5名（火災原因調査室3名 及び 研究員2名）

調査範囲：長岡市消防本部、小千谷地域消防本部、十日町地域消防本部の各本部所管
市町村

火災 No	調査 方法	本部	住所	火災の 種類	概 要		発生時刻	覚知時刻	鎮火時刻
1	現地	長岡市 消防本部	長岡市東新町	建物 (工場)	ぼや	電気配線より出火と推定		10/23 18:03	10/23 18:48
2	現地	長岡市 消防本部	長岡市西新町	建物 (工場)	ぼや	高温熔融金属が水分と混ざり飛び 散ったことにより出火と推定		10/23 18:29	10/23 18:53
3	現地	長岡市 消防本部	長岡市城内町	建物 (ホテル)	部分焼 (屋上のガスボイラー)	ガス爆発による出火と推定		10/23 18:29	10/23 18:50
4	現地	長岡市 消防本部	長岡市濁沢町	住宅等	6棟焼損	火災前後に土砂災害発生 詳細不明		10/23 18:31	10/24 13:30
5	現地	長岡市 消防本部	長岡市千手	共同住宅	1棟半焼 (S造3F建て共同住宅18戸) 周辺10棟ガラス破損等	ガス爆発による出火と推定		10/23 19:26	10/23 21:10
6	現地	長岡市 消防本部	三島郡越路町	住宅		仏壇の線香による出火と推定		10/23 20:20	10/23 20:22
7	現地	小千谷地域 消防本部	川口町武道窪	建物 (納屋)	農作業小屋 W造2F建 各階約52㎡全焼	発火源：だるまストーブの熾火。納 屋（物置）が倒壊し出火。	本震直後		
8	本部 から 聴取	小千谷地域 消防本部	小千谷市岩間木	住宅	住宅2棟焼損	地震時だるまストーブで洗濯物を乾 燥中との供述あり			
9	現地	十日町地域 消防本部	十日町市春日	住宅	ぼや	外国製蓄熱暖房機が倒れ、接してい た畳が若干焼損。発煙したため家人 が水道水で消火	10/24 12:43	10/24 12:45	10/24 13:00
10	現地	長岡市 消防本部	三島郡越路町	その他	簡易トイレ2基	避難所の仮設トイレ3基中2基 放火の可能性大 消防庁公式発表件数外		10/24 23:31	